

第1回デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議議事要旨

- 1 開催日時 令和5年7月20日（木曜日）10時から11時30分まで
- 2 開催場所 東京都庁第一本庁舎42階北塔特別会議室B
- 3 出席者 設楽明寿委員、竹川寿美子委員、根木慎志委員、ヨーコ・ゼッターランド委員
（オブザーバー：東京都聴覚障害者連盟）

4 会議内容の概要

- (1) 開会挨拶・趣旨説明
- (2) 委員紹介
- (3) 議事

【委員の主な意見】

①大会ビジョン等について

- ・スポーツへの価値の感じ方だが、スポーツにはそもそも魅力があるという点が重要である。その魅力に惹かれてスポーツを観たり、携わることにより価値を感じる、という流れだと考える。
- ・価値を受け手の側に選んでもらえるような発信が必要ではないか。
- ・今は浸透しているが、昔は、パラアスリート、パラスポーツという言葉もなかった。デフアスリートという言葉も広がっていくと良いと思っている。ゆくゆくはアスリートという言葉の中に、パラもデフも含まれていくのが理想。
- ・デフリンピックが、デフスポーツとは何なのか、また、デフスポーツの在り方を考えるきっかけになるのではないか。
- ・「デフリンピックムーブメント」の位置づけをどのように捉えていくのかが、大切だと考えている。
- ・過去、大会に参加して思ったことは、大会を通じて街が変わっていく、という印象を受けた。これも、「デフリンピックムーブメント」の一つだと思っている。
- ・コミュニケーションツールとしてのデジタル技術の普及だけでなく、スポーツを通して、競技環境などへのデジタル技術を活用した新たなツールみたいなものも開発促進・普及に含めて良いのではと思う。

②その他

- ・ろうの子供たちが、デフアスリートを自分たちのロールモデルと考えられるよう、デフリンピックに参画できる機会を増やしてほしい。
- ・ロールモデルを選ぶのは、小学生の頃が多い傾向があると聞くので、小学生をターゲットに何かできると良いと思う。
- ・大会名称については、ハッシュタグで拾われやすいようにするなど、SNSでの拡散も考慮するとよい。また、日本語と英語とで順番を合わせた方がよいのでは。
- ・「障害」という言葉で、最近では「障がい」と表現する人も多いが、何か決まりがあるのか。
- ・デフアスリートが、視覚的にモチベーションが上がるような応援方法を期待したい。